目指す学校像

標

重 点 目

児童が自立して学び、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて行動できるよう教職員、保護者、地域の方が全力で支援する学校(児童が通って良かった、保護者が通わせて良かった、地域の方があって良かった、教職員が勤めて良かったと思える学校)

1 学びの自律と個別最適化、そして探究化による資質・能力の育成

2 子どもが安心して教育活動のできる安全な教育環境づくり

- 3 創立 50 周年記念事業を中心とした開かれた学校づくり、CSとSSNの一体的な推進によるスクールコミュニティの実現
- 4 一人ひとりの多様な幸せ (Well-Being) を大切にする教育が実践できる環境づくり

 達 A
 ほぼ達成 (8割以上)

 成 B
 概ね達成 (6割以上)

 度 C
 変化の兆し (4割以上)

 D
 不十分 (4割未満)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、 方策の評価指標」を設定。

			学    校	自 己	評価			学校運営協議会による評価
	年	度	目 標		年 度	評	益 価	実施日令和5年2月17日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの 意見・要望・評価等
1	○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・ 算数ともにほぼ全国・県平均値であるが、記述式による問題において、全国・県平均を下回る結果となった。 ○国語は「言語についての知識・理解」は向上している。 ○算数は「好きか?」「よくわかるか?」の質問に対し肯定的な回答が少なかった。図形の領域、短答式の問題形式は正答率が低い。 (課題) ○アンケートで学習に対して肯定的な回答をする児童は多いが、主体的な学びに係る回答は低めなことから、主体的に取り組むためのさらなる改善が課題である。 ○記述式に関する力が平均を下回る結果から、言葉で適切に表現する児童の育成が求められる。	・教現業を 有さ展る童」が自習 を を を を を を を を を を を を き と の き と の き る き る ま る ま る き る き る き る き る き る き る	①ICT を有効に活用し、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、指導の個別化、学びの個別化を行う。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、データの利活用等する中で、自ら学習状況を把握できるようにする。	①学校評価で該当項目に肯定的な回答を増やす。  ②児童が自己採点の結果を基に、自らの学習 状況をつかみ、目標を立て達成に向けて行動できるようになったか。	①学校評価の「授業がわかりやすい」項目では昨年度と同様、肯定的な回答 85%、「よい授業」アンケートの「先生は授業でテレビやパソコンなどを使って授業をしてくれている」の回答は 3.3 ポイントとなった。 ②学校評価の「自分から進んで学習に取り組んでいるか」の回答では、昨年度より 4 ポイント上昇して89%肯定的な回答が得られた。	В	①教師が提示するためのICT機器の指導方法は 充実してきていると捉えているが、個別に学ぶ ためのICT機器の活用について、家庭とも連 携を図り、成果を上げていきたい。 ②自主的な学習を促すために、PTA とも連携を図 り、「家庭学習検討委員会」でさらに自主的な 学習が促進されるよう体制をつくる。	・「授業がわかりやすい」という回答が85%で素晴らしい。 ・家庭学習が連携して取り組めるようになるとよい。 ・家庭も巻き込んで課題に向き合えるように取りんでいけるとよ記述される。・自分の思いむを充ま自分の思いむを充ま自分の見がもてるようにに取り組んでいってもらいたい。
		・学校課題研 修の充実や 高学年教科 担任制の効 果的な実施	①全国・市の学習状況調査の最新の結果を基に 読解力に関する状況を分析するとともに、市 教委による学力向上カウンセリング研修を受 けることで、より効果的な手立てを設定し学 校全体で児童の読解力向上を図る。 ②高学年教科担任制は、教務主任を中心に、時 間割等を見直し PDCA サイクルによる評価・改 善を図る。	<ul><li>①調査結果の分析や学力向上カウンセリング 研修を踏まえ、授業改善の視点や手立て を、ブロック別に設定する。また、読解力 についてのポイントを向上させる。</li><li>②教師の専門性を高める研修を充実させ、教 科担任制についての成果と課題をまとめ る。</li></ul>	①「学校カウンセリング研修」は全教職員が参加して、粘り強く問題に取り組む力に弱さがあると知ることができた。話し合い活動」等の協動的な学びから、友だちの多様な考え方を知ったり、自分の考えを深めたりする研究授業を行った。 ②教科担任制の実施により、教職員は担当した教科の専門性を高めることができた。	В	①「自分の思いや考えを伝える」ことに関する項目では、肯定的な回答が70%であるため、引き続き「話し合い活動」を充実差させ、言語活動に重点を置いた指導を行っていく。 ②学校行事や、学年・学級指導において、学級担任の負担が多くなってしまいがちだったため、次年度は様々な活動で、担当職員全員が指導できるようにする。	
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問項目で肯定的な回答をした児童は、全国・県平均を上回った。 ○教職員による安全点検を実施して、危険箇所等は早期発見できている。 ○コロナ禍で行事や遊びに制限がかかり、体力テストの握力以外が全国・県平均を下回る結果となりケガの増加が見られる。(一人で転倒してしまう、転んだ時に手がつけない等) 《課題》	・全児童が Well-Being と思える学 校づくり	①生徒指導主任を中心に、月 1 回のいじめのアンケートや心と生活のアンケート等を行い、 児童のサインに気づき、早期対応ができる体制づくりを行う。  ②With コロナでも、できる行事を見直し、児童が体験的な活動を通して、学校に通いたいと思えるようにする。	①教職員は、組織的に報・連・相・見届けを 実施することで、即日対応する。 ②50 周年記念事業等を実施する。感染症対策 を行い、必要な行事を実施できるようにす る。	①生徒指導主任を中心に、設問3に該当する児童は、保護者と連携を図り、即日対応を行った。本人・保護者への丁寧な対応を行い、学校生活指導員に見守り等も依頼する等、再発防止を行った。必要に応じて、スクールローヤーによる特別講義を高学年全学級で実施し、いじめの予防に努めた。 ②学区内のサイデン化学アリーナを借りて、保護者2名と全学年が一堂に集まり、50周年記念フェスティバルを実施することができた。	В	①引きつづき、地域・家庭・関係機関と連携を図り、早期対応を組織的に行っていく。 り、早期対応を組織的に行っていく。 ②With コロナから、アフターコロナでの行事の 見直しを図っていき、さらに、地域に開かれた 学校教育を行う。	・スクールロ目には、 ・スクールロ目には、 ・グームがすべて悪いもたで、 ・グームがが、子ど等のよいため、 ・グームがが、子どいでは、大ないが、見えいため、いいないでは、大ないため、いいないでは、大ないため、これでは、 を感じる。ICT機といいは、ともでは、ないともできるとは、 ・子ど関対でのからない。 ・子ども関対でのからない。 ・子ども関対でのからない。 ・子ども関対でのからない。 ・子ども関対でのからない。 ・子ども関対でのからがありたい。 ・子でもとして、まない。 ・子ども関対でのからがありたい。 ・子でも、とも連携を図りたい。
2	○緊急度 2 以上に該当する児童が、複数いる状態であるため、積極的な生徒指導と、教育相談の早期対応が必要である。 ○体力低下によるケガの増加がみられるため、休み時間の外遊びの確保、体育活動時の運動量の確保、ケガ予防の児童の意識向上を図る必要がある。	・安全点検の 組織的な対 応と動切な 予算執行	①教職員による安全点検を組織的に実施するとともに、危険箇所や不具合があった場合、即時対応して適切に修繕、見直しをする。必要に応じて迅速に予算を執行していく。 ②養護教諭を中心に、校内におけるケガマップ等を作成し、児童自らケガ予防について考えられるようにする。	①適切な教育環境づくりを実施し、学校評価の安心・安全に係る質問について項目で肯定的な回答を向上させる。 ②ケガの件数が減少及び体力向上のポイントの向上。	①月1回の安全点検と、日々の職員の点検とで、優先順位をつけて、児童の教育活動が安全に行った。学校評価の「安全・安心で清潔な学校づくり」の回答は90%以上肯定的な回答が得られた。②ケガマップと、ケガの多い場所や時間帯について養護教諭を中心に、周知した。体力向上のために、キャンペーン活動を実施することで、児童が自主的に運動に参加できるようにした。	В	①児童自身が、ケガや安全について意識できるように、計画的に児童が作成するケガマップや理解啓発の動画を作成できるようにする。 ②教職員の危機管理意識を高めるとともに、児童が中心となってケガ予防の対策を考えられる機会を設け、自分たちで安全について意識を高められるような枠組みを作る。	
3	<ul> <li>〈現状〉</li> <li>○昨年度、学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、委員に趣旨を説明し、「栄和小の児童につけさせたい力」について熟議をした。</li> <li>○学校運営協議会とスクールサポートネットワークでの役割の確認とを確認した。</li> <li>〈課題〉</li> <li>○今年度は昨年度の熟議の中で共有した「つけさせ力」を地域・家庭等にも広め具体的に実施できるとよい。</li> <li>○コロナ禍で制限があり、学校公開や参観の機会が少なかったため、児童の様子を家庭や地域の方々に見ていただく機会を多く設けることが必要である。</li> </ul>	・ 自像家す教積開 地にづ校たり 指を庭る育極 域あくを地の はあくを地の とるり核域推 とそととづ進	①学校運営協議会を年 3 回実施して、熟議を重ね、その具体策を実現に向けて計画実施する。 ②50 周年記念行事や年 5 回の授業参観を家庭に公開することで、積極的な情報発信をする。 ①防犯ボランティア、学習ボランティア等の方々の支援を活用し、日々の登下校の見守りや、授業での出前講座等を実施し、充実した教育活動ができるようにする。	<ul> <li>①学校運営協議会の熟議で出た具体策について実現できたか。</li> <li>②学校評価で該当項目の質問について肯定的な回答を向上させる。</li> <li>①日々の活動から、児童が感謝の気持ちを表せるような機会を設ける。</li> <li>②さいたま市学習状況調査にて地域との関わりについての質問について肯定的な回答を向上させる。</li> </ul>	①学校運営協議会を3回開催し、熟議では、「あいさつができる」「読書活動を推進する」に重点を置いて活動をすすめるよう確認した。読書活動では、図書委員・司書を中心に読書キャンペーンを実施した。 ②学校評価「学校は教育活動を保護者や地域に進んで公開していますか」の回答で91%肯定的な回答が得られた。(昨年度は項目なし) ①博物館の方による出前授業や、育成課による昔遊び、読み聞かせボランティア等の活動時には、児童から感謝の意を伝えた。 ②SSNを年2回開催し、防犯ボランティアリーダーに安全な登下校や防犯意識を高められるようなお話しいただいた。	В	<ul> <li>①「あいさつ」については保護者・教職員等はあいさつができている項目が高いが、児童は「あまりできてない」と捉えていた。児童にできている部分については、褒めるなどして意味づけしていきたい。読書活動も家庭と連携して推進していく。</li> <li>②アフターコロナで、学校を安全に地域に公開していく。</li> <li>①防犯ボランティア・給食の職員の方などにも対面で、児童から感謝の意を伝える機会を設けたい。</li> <li>②学校評価では「家庭・地域との連携」についての肯定的な回答が76%であったたた、さらに連携を図っていく。</li> </ul>	・CS実施1年目で学校と 年3回、話し合いの機会 をもてたことは大変良かった。2年目以降はここ で話し合ったことより。 ・登下校の見守りの安全は SSNに参加いただいてく いる方が、よくやもしたが、 れている。保護子ども の安全を見守るきよい。
4	<ul> <li>〈現状〉</li> <li>○研修主任とエバンジェリストを中心に、ICT を活用した授業実践は全教職員が実践している。</li> <li>○学校課題研修で国語科の授業実践と「人権教育」について研究発表をして、教職員の資質向上が図ることができた。</li> <li>〈課題〉</li> <li>○オンライン授業など新型コロナに対しての変化する授業形態に対応するのに精一杯で、授業内容の改善まではなかなか実施できていない教職員が多い。教職員が授業準備、成績処理をするための、さらなる時間の確保が必要。</li> <li>○児童が主体的に学ぶためのさらなる ICT 活用(思考をまとめる・発表する・個別に学びを深める)について研修ができるとよい。</li> </ul>	・一人ひとり が力を発揮 できる。 Well-Being な環境づくり	① 始業時間を早め、放課後の時間を確保する等の、適切な業務改善をすることで、教職員が本来すべき業務に時間が使えるようにする。② 毎週木曜日に研修の時間を設け、国語・算数の授業実践を行ったり、指導者を招聘した、各学年の研修授業を実施したりする。 ③ ICT 支援員の活用や、エバンジェリストを中心に、主体的に学べる ICT 活用事例について紹介する。データの利活用や、ICT 活用で個別最適な学びの実現を研修する。(年3回)	①授業準備等の時間が確保できるよう業務改善をはかり、教職員がゆとりをもつことができたか。 ②毎週木曜日の研修の時間を確保するとともに、国語・算数の講師をそれぞれ招聘し、講演会や研究授業等を適切に実施したか。年2回 ③学校課題研修の中で、ICT活用事例について研修を深められたか。	・ 記話しいただいた。  ①運営委員会や職員会議等に日課票の見直しを行い、業間休みと清掃時間を5分ずつ短縮し、下校時間を10分早める日課を作成し全家庭に早めに周知した。 ②国語・算数の指導者を招聘し、講演1回と指導案検討6回、研究授業3回実施。指導助言を活かし、個別最適な学びについて教職員のスキルアップを図った。 ③情報主任・エバンジェリストによる「スタディサプリ」の活用研修を2学期実施。		(現金図っていく。 ①新しく見直した日課を令和5年度から完全実施して、教職員のゆとりを図る。 ②基礎学力の定着の学校課題研修を行うとともに、教育相談関係、特別支援教育関係、ICT 関係の研修も今年度より多く実施していく。 ③データの利活用について、研修を深めるとともに、家庭における ICT 活用について、講師等を招聘し、保護者にも使用方法を伝えていき、さらに活用の幅を広げたい。	・若手教職員が多い中で、 研修会を充実要である。 ・学習教材のデジタル化だけではなく、ICTを利 活用することで、自主的な学びができるようになると思うので、本当のICTの利便性を教えていってもらいたい。